

物流機能が広がる「西部地区」

木材港・弥富ふ頭



【港内位置図】

木材港 / 伊勢湾台風の流れ木被害を教訓に整備

原木輸入減少傾向のなか一部貯木場は埋め立て再利用

名古屋の木材集積地としての歴史は古く、名古屋城築城時には木曾材を中心とした築城資材が、堀川などの水路を通じて盛んに運ばれました。

戦後、名古屋における合板産業の発展に伴い輸入木材が急増する中、昭和 34 年に伊勢湾台風が東海地方を襲い、港内に点在していた貯木場から木材が流出し、背後地に未曾有の被害をもたらしました。

この教訓を踏まえ、かつ木材輸入のさらなる増大に備えるため、昭和 43 年、内港部から離れた西部地区に広大な貯木場が広がる西部木材港が誕生しました。

現在、水面貯木場約 140 万㎡、陸上貯木場約 40 万㎡を有しますが、コンテナ化の進展などから原木取扱量は昭和 48 年をピークに減少傾向にあり、貯木場の利用率も低下しています。

一部の貯木場は埋め立てられ、倉庫や物流センターなどの港湾関連用地などとして利用され、現在も埋め立てや埋立地の分譲が進められています。

弥富ふ頭/西部臨海工業地帯の一角として発展

近年は公共岸壁からの完成自動車輸出も盛ん

木材港に隣接する弥富ふ頭には、窯業原材料の流通センターや鋼材メーカー、航空機器製造工場などが立地しており、西部臨海工業地帯の一角として発展してきました。

現在、川崎重工業(株)名古屋第一工場では、米国ボーイング社の旅客機 B787 用製品の製造や組立が行われるなど航空宇宙産業の拠点となっています。

また、公共岸壁は完成自動車の輸出拠点として利用されています。



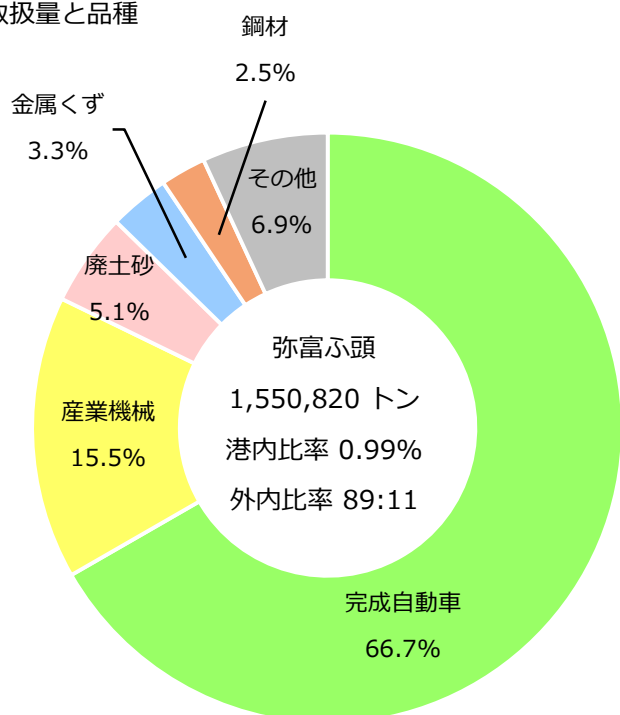
エリア基本データ

ふ頭名称	弥富
旧名称	西3区
臨港地区面積	283.9ha
埋立完成時期	昭和 51.4.3～令和 7(予定)
バース水深	4.1～12m

専用ターミナル（弥富ふ頭）

係留隻数 399隻

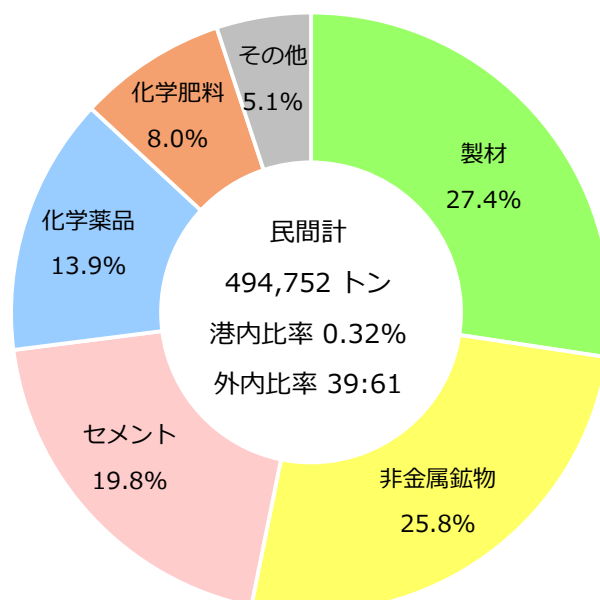
取扱量と品種



民間計（弥富ふ頭周辺）

係留隻数 358隻

取扱量と品種



● 弥富ふ頭完成自動車輸出 102万トン（品種別取扱港内比率 2.5%）

